

氏名 由利康裕

所属 人文学部法経政策学科 3年

派遣先大学 ラトビア大学

期間 9月6日～9月20日(15日間)

日本語クラスでの指導内容

14:30～16:00の初級クラス、16:30～18:00の中級クラスの2コマが平日毎日開講されています。クラスの受講生のレベルは様々で初めての人にはひらがなから、上級者のなかには文法が完璧にできる人もいます。そのため受講生に今日は何を学びたいかを聞いて受講生のニーズに合った授業をします。私が派遣された時期は日本人チューター的人数が多く最大で7人、常に5人はいるという状態だったので、だいたい同じレベルの少人数グループを作り、そこに日本人がつくという形をとりました。上級者にはマンツーマンでつくことも少なくはありません。具体的な内容は以下の通りです。

ひらがな(beginner)

こんにちはなどの基本的な挨拶(beginner)

色や天気になんだ会話(middle)

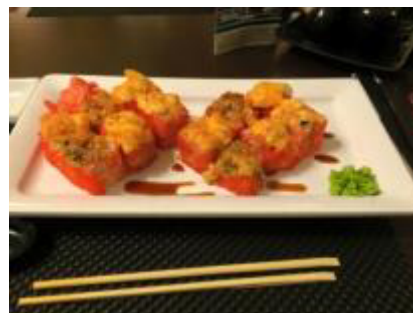
気持ちを表現する形容詞(middle)

漢字検定(advanced)

敬語(advanced)

現地での交流活動

授業が終わってからはほぼ毎日現地の学生とご飯に行ったりバーに飲みにいったりしました。ラトビアには日本食のお店があり、寿司を食べにも行きました。現地の学生は学習意欲がとても高く、ご飯の場でも積極的に日本語を学ぼうとたくさんのことを聞いてくれました。また、ラトビア語や英語を教えてほしいと言うととても親切に教えてくれるなどコミュニケーションをとる機会はたくさんあったため、現地の学生とはすぐに打ち解けることができました。また、ある日はホームパーティーに招いてもらい、料理をごちそうになったあと、トランプで遊び、とても楽しい時間を過ごすことができました。



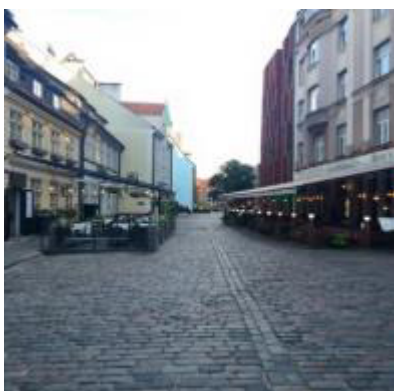
感想・今後の展望

私自身海外経験がなく、まして一人で海外に行くというのはとても勇気のいることでした。英語力もそこそこで最初は不安しかありませんでした。しかし行ってみれば意外とすんなり行けました。ここまでは順調だったのですが、初日でいきなりバスの中で財布をすられ

てしまいました。原因は気の緩みから財布を左ポケットに入れていたことです。幸い現金はそんなに入っていなかったのですがいきなりクレジットカードを失うことになってしまいました。貴重品はポケットに入れてはいけません。これ海外では基本です。これを読んだみなさんは絶対気を付けましょう(笑)

それから一日は落ち込んで食事もタバコもままならない状態でしたがいつまでも落ち込んでいられません。切り替え、大事です。ということで元気に頑張りました。

授業の方ではいきなり敬語を教えることになりました。日本人である自分も敬語ができるかどうかと言われたら微妙です。ラトビアの学生はほんとに頭がいいです。最初は自分の思い通りの授業ができず学生のニーズを満たせたか不安でした。しかし、ひとりの学生が謙譲語という漢字に興味を示し、書けるようになったと言って私に見せてくれたことがとても嬉しくて不安が薄れました。またある日は日本語における「が」と「は」の違いについて聞かれました。これは日本人は感覚で使っているため明確な違いについて説明できませんでした。あとで教えるために調べたため、日本語の勉強にもなりました。



週末はリトアニアに行きました。ラトビアからはバスで4時間くらいで行くことができ、仙台から東京に行くよりも近く、安いため手軽に行くことができます。リトアニアには学科の友人が留学していたため彼らと首都ビリニュスを観光しました。 Hostelもバスも自分たちで手配し、 Hostelまでたどり着くまでも大変でしたが無事に自分たちで行くことができたので達成感もありとてもいい経験になりました。

ラトビアでの2週間を振り返ると、トラブル、不安もあり大変でしたが、終わってみるとそれを上回る充実感が待っていました。実は帰りの飛行機を乗り過ごし結果的にものすごいお金がかかってしまいましたがそれでもこのプログラムを通じてたくさんの人と繋がれたこと、普段することができない経験、たくさんの思い出ができたので行ってよかったと心から思っています。最初は海外に行く勇気がなくなかなか一歩を踏み出すことができなかったのですがこの2週間は私を変えてくれたものだと思います。メンタルもかなり強くなりました。実際に行ってみて自分の英語力はまだまだだと痛感したのでこれからは英語の勉強を本気で頑張るってまたどこの国に行ってみたいと思っています。

長くなりましたがこのレポートで私が伝えたいのは一歩踏み出す勇気を出せということです。勇気を出せば確実に自分のなかの何かが変わります。きっかけはすぐ身近にあるのではないのでしょうか。

